

値引き限定販売 「裏事情」いかが

飛驒・老舗蔵元の銘酒を

創業150年の老舗蔵元「渡辺酒造店」(飛驒市)が、看板ブランド「蓬萊」を30%値引きした限定商品「裏事情」の販売を始めた。コロナ禍で今冬は減産が見込まれ、酒米農家の作付けや収入にも影響する。酒造りを持続的に維持していくための在庫一掃に乗り出した。



30%引きの日本酒「裏事情」を発売する渡辺久憲社長(左)と酒米農家の岩塚吉郎さん=飛驒市古川町

コロナ禍で減産予想 米農家を支援へ 在庫一掃

同酒店が販売を始めた「蓬萊 裏事情」は、飛驒産の酒米「ひだほまれ」で仕込んだ。うまみの強いまろやかな口当たりが特徴。720ミリットルを645円、1.8リットルを1412円(いずれも税込み)で販売する。

新型コロナウイルスの影響で、7月の同店の売り上げは前年比3割ほど減った。例年以上の在庫を抱えているため、今冬の酒造りは減産が予想される。このままでは来春の酒米の作付けにも影響すると見込まれるため、農家の経営を維持しようと、値引きを決めたという。

同店のある飛驒市古川町周辺は酒米栽培が盛んで、約150軒の農家がある。その1人で、栽培歴40年以上のベテラン農家の岩塚吉郎さん(72)は裏事情の販売を歓迎する。来季の減産を見込んでいることもあり、「ありがたいこと。より良い米をつくらうという原動力になる」と喜ぶ。

気候変動で酒米の栽培は年々難しくなる中、岩塚さんもドローンによる農薬散布に取り組みなど経営努力

を重ねる。渡辺久憲社長(51)は裏事情の販売を単純な値引きとは異なると強調する。「農家とは二人三脚で酒造りをしている。農家の努力なしには酒はつくれない。手を尽くして農家を支えたい」と割り引きの意義を語る。購入の問い合わせは同酒店(0577・73・0012)へ。(山下周平)

岐阜